

6) 森林火災を予防するために、できるだけ除草剤を使用しないでチガヤを除去することが望まれる。

最後に、この種の実証試験では、実証すべき項目をできるだけ絞り込み、試験設計を単純にすること、異常気象などで試験実行が困難なときには、臨機に計画変更が可能なような全体計画や実施期間の延長などが可能な予算的措置が望まれる。

図書紹介

◎熱帯樹木病害の診断マニュアル —アグロフォレストリー作物の病害も含めて— 小林享夫著、(Takao Kobayashi: Diagnostic manual for tree diseases in the tropics—with some diseases of agroforestry crops—) 発行: (財)国際緑化推進センター、2001年、178p.

この英文マニュアルは、著者の小林享夫博士が、森林総合研究所およびその前身である林業試験場、さらに東京農業大学国際農業開発学科の教授として、自ら東南アジアや南米を中心とする熱帯林で調査した樹木病害について、わかりやすく集大成したものであり、すこぶる便利なマニュアルとなっている。

内容は、I. 森林樹木の病害、II. アグロフォレストリーで利用される工芸作物と熱帯果樹の病害、III. 緑化樹の病害に分かれており、それぞれ主な樹種別に、Iでは55病害、IIでは58病害、IIIでは100以上の病害がとりあげられている。それぞれの病害の病徴と被害、それを起こす病原体、防除の要点が概説されているとともに、解説されたすべての病害のカラーの病徴写真が数点ずつ添えられているのが大きな特徴である。写真は、全体的な病徴と、細部の拡大写真からなっているため、病気の特徴がつかみやすい。さらに、主要な文献とともに、アペンディクスとして、英文による森林病理学の基本的用語の解説や病気の診断のためのガイド、農薬の分類と主な殺菌剤の解説が11ページにわたり記されているのも、このマニュアルを非常に使いやすいものになっている。また、この種の本では、往々にして学名などは古い学名などもかまわずに用いられることもあるが、著者の専門が菌類分類学であるため、用いられている学名はよく吟味されており、国際的に通用するマニュアルになっていると言える。

これらのことから、熱帯林業関係に携わる広い方々に、常時かたわらに携えておくと非常に便利な本としてぜひおすすめしたい。 (金子 繁)